

壊音

奥秀太郎 映像
大友良英 音楽
篠原一彦 原作

人は死ぬ。世界はもう壊れている。



宮道佐和子
園光美和子
小林愛
片山圭
山之内奈穂子
中坪由起子
中島念泳
栗原優海
栗原夏陽
奥タケ
奥義男
大友良英 音楽
篠原一彦 原作（文藝春秋刊）
M6 製作
スローラーナ+重伝協力
奥秀太郎 監督作品

2022年 | DV | カラー | 74分

壊音 KAI-ON

原作：篠原一（文藝春秋社刊）
音楽：大友良英＋奥秀太郎
撮影＋編集：奥秀太郎
出演：小林愛／宮道佐和子／岡光実和子／
片山圭／中坪由起子／山ノ内奈穂子
2002年/DV/カラー/74分 宣伝協力：スローラーナー



「人は死ぬ。世界はもう壊れている。」

『壊音 KAI-ON』は、17歳で史上最年少の文学界新人賞を受賞した篠原一の小説をベースに、世界が廃虚のようになしか見えない少女達を感じる崩壊感覚と幼いけれども美しく魅力的な幻想を、台詞を排し、爆音と、めくるめく映像で描き出した作品である。

退廃的で崩壊した世界を、交差する光と闇、色彩の氾濫、めまぐるしく旋回する映像で表現。混沌としているか見えながら、繊細に組み立てられた奥秀太郎の世界がここに完成した。

劇団大人計画、HIGHLEG JESUSなどの劇中映像・音楽から、CMや様々なアーティストのビデオクリップなど多彩な活躍ぶりの映像作家、奥秀太郎の初監督作品。デジタルカメラを使い都内および関東近郊でゲリラ的に全ての撮影を行った。校舎が崩れ落ちる場面は、実際にある学校の取り壊し日に撮影されたものである。

編集は自作 Machintosh の世界でも最先端のノンリニアシステムで行い、本作品の音響も監督が手掛けた。メインのPA(スピーカー)に国内外のレイベなどで世界のトップDJたちの高い支持を得ている MASTER BRASTER を使用。ケーブルから電源までをこだわりぬいたうえで得られた、半径50m変わらない、極限までとぎすまされた美しい音像。過去にも爆音が激しい映画はあったが、それらとは比べものにならない激しさ。頭蓋骨を震動させ、中枢神経を直接刺激する、映画としては本邦初のシステム。劇場へのPA(スピーカー)の持込み、設置によって、今までとは異なった体感を得られる。

この74分間は目に痛いほどの強い映像と、体内に入り込んでくる音によって、不協和音の世界へ引き込まれていく。

都内の私立中学校に通う三人、タキ、トト、ハジメはドラッグに耽っていた。最初はほんの好奇心から始めたのだったが、やがてそれは彼らの反抗期の複雑な精神状態と相まってエスカレートしていく。

か弱く、ひ弱で、完全にドラッグに溺れてしまったタキ。三人のなかでは最も大人びていて、ドラッグを売りさばっている、一線を踏み越えられない自分との葛藤に苦しむある春の日の授業中、タキが病院へ運ばれてしまう。

タキに付き添って病院に行ったトトとハジメだったが、病院の待ち合い室にいるうちに、彼らの心の中では何かが変化していく…。



「壊音」をみて、気温20℃の場所で体温35℃の人が手に持っているソフトアイスクリームが溶けきっていくまでに、何回のもたつきをするのか数えてみたくなった。奥監督は数えてしまう人なんだ。アイスクリームを食べるよりも…。



奥秀太郎とは、初めてあったのが、仕事の時だったので、敬意を表して「さん」つけて呼んだ。そしたら「奥さん……」って昼下がりの情事みたいで変だった。呼び方だけじゃなくて、本人も変だった。撮ってるモノも変だった。でも良いんじゃない？いろいろ。



野田秀樹
(劇作家・演出家・俳優)

9月18日(水)、19日(木)、20日(金)の3日間限定レイトショー!

特別ご鑑賞券¥1,300絶賛発売中! (当日一般・大学生¥1,500の処)

●夜9:15より1回上映(夜10:30終映予定) ※18日(水)は女性の方は1,000円でご覧いただけます。

梅田ロフトB1 06(6359)1080

テアトル梅田

奥秀太郎監督『日雇い刑事』絶賛上映中! 9/17(火)迄。連日夜9:15より1回上映

<http://www.cinemabox.com/>